



No. 39
2013 Summer

山松舎
臨南寺

特集

道元禅師ものがたり

15



興聖寺を拠点として道元禅師の教えは 多くの人々に広まっていきます

すぐに懐装は禅師の侍者に

道元禅師に入門を許された懐装。二

人の間には、昔から師匠と弟子であつたかのような濃密な空気が漂っています。すぐに道元禅師の侍者になることが許されました。当時すでに、中国からやってきた寂円が禅師の侍者として仕えていました。

この二人には不思議な縁があり、道元禅師亡き後、内紛で危機に瀕した永平寺住持の座を二人で守り抜いて後世につないでいきます。道元禅師は五十三歳で亡くなりますが、懐装は八十一

歳、寂円は九十一歳まで長寿を保ちました。

中国で得た「正伝の仏法」を広めようという道元禅師の思いは、多くの人々に受け入れられていきました。興聖寺にはたくさんのお僧侶や信者が集まりました。修行僧は五十人を超え、受戒した僧侶や在家の信者だけでも二千人を超えたと言われます。

後に、懐装がかつて属していた日本達磨宗を率いていた懐鑑が、義介、義尹、義演らとともに大挙入門しています。

「正伝の仏法」とは

道元禅師の言われる「正伝の仏法」とはどんなものでしょうか？ その一端は『正法眼蔵』など禅師の著作からうかがうことができます。

まず、坐禅の考え方です。当時坐禅という悟りを得るための修行であると考えられていました。しかし道元禅師は、坐禅することがそのまま仏の行であり、悟りの行であると教えられています。坐禅は悟りを得るための苦行ではないというのです。逆に「安楽の法門」と言われています。

無念無想の状態になるためにとか、精神統一を図るためにとか、健康になるためにとか、そんな「おもわく」を持って坐禅するのも間違いのようです。「非思量こそ坐禅の要諦である」という道元禅師の言葉があります。非思量とは「何も考えない」ということでは

なく、「何もおもわくや目的を持たない」ということのようにです。

「只管打坐」と「眼横鼻直」

悟りも、「ある」とか「くる」とか「えた」とか「なった」とかいうものではなく、いったん悟ったらそれで終わりというものでもないと思われています。坐禅は誰でも行えるものだが、自分で坐禅しなければ何も得られない、頭で考えているだけではだめだとも言われています。これが、道元禅師が比叡山で修行していた時の疑問「人は生まれながら仏だといふのになぜ修行が必要なのか？」に対する答えなのです。そして「只管打坐」ひたすら坐禅せよと勧められたのです。

また、道元禅師は「眼横鼻直」とも言われました。「私が如浄禅師のもとで確かな仏法を明らかにできた。確かな仏法と言っても、目が横に並び鼻が縦についているというような当たり前のことだった。特別なものは何もないし、その実践と言ってもただ時間が過ぎゆくままに過ぎただけだ」。

こうした道元禅師の教えが人々をひきつけてゆくにつれて、比叡山からの圧力も強くなっていきます。その話は次回といたしましょう。

お盆の八月、お彼岸の九月 ご家族そろってお参りください

間もなくお盆の季節がやってきます。

八月十日と十二日には、お墓経を勤めさせていただきます。十日が午前中、十二日が午後五時から九時まで。どちらか都合のよい日にお越しください。

十二日には、弁財天万灯会が催されます。この夜午後六時から九時まで、臨南寺の本堂前は揺らめく灯りに包まれます。弁財天様への願い事を書き入れ、本堂前に献灯なさいませんか？ 万灯会は、お盆の迎え火でもあります。ご先祖様や亡き人へのご供養とともに、皆様の願い事をご祈禱させていただきます。ご祈禱は六時半から八時からの二回行われます。

十六日は、盂蘭盆会施食会を修行します。各家の精霊しょうらいをご回向させていただきますので、ご家

族そろってお参りください。お参りできない方は、不参にてご回向をお受けします。

九月は、お彼岸です。

二十日は写経しゃきょう会を行います。お写経をすると、なぜか気持ち落ち着きます。

二十六日は、彼岸会施食会ひがんえせじきえを修行いたします。ぜひお参りください。よろしくお願いいたします。



8月12日、境内は幻想的な雰囲気に染まります。

カブスカウトの子どもたちが 坐禅に挑戦しました

六月二十三日（日）ボーイスカウトの大阪二四九団カブ隊の子どもたち七人が、本堂で坐禅とぞうきんがけにチャレンジしました。その子どもたちの感想文です。

「去年はたたかれなかったけど、今年は一回だけたたかれました。でも思ったよりはいたくなくかった。でも怖かった」

（竹岡れおくん）



「今まで三回ぜんしたけど、たたかれなかったのは一回目だけ。ちよつとたるんでたので、一発やられてスッキリしました。なんかやつてよかったなあと思いました」

（松尾優稀也くん）

「はじめてぜんをしました。たたかれるのがこわかった。はじまつて10分ぐらいたつて、おしょうさんがぼくの後ろでとまりました。たたく前のあいずでかたをチョンとたたかれました。バシンという音をたてたたかれました。すごかったです。なきそうになりました。ぜんがかわつて、たたみをつきました。しんどかった」

（粕野心之介くん）

坐禅は一見難しそうですが、坐つた後は達成感があり気持ちのよいものです。当寺の早朝坐禅会の参加者も増えています。団体での坐禅も受け付けております。寺務所にご相談ください。



被災地は二年半前のまま 時が止まっている

六月の末、山形県の師寮寺（師匠の寺）に行ってきました。

その往復で、宮城県仙台空港を利用しました。仙台空港は、太平洋沿岸に立地し、東日本大震災の際に津波の被害があったと聞いておりました。

着陸・離陸のときに窓の外を見ると、海岸から空港の手前まで、ほとんど津波被害そのままの光景が広がっておりまして。約二年半の時間が止まっているような気がしました。
そして、先日の与党幹部の「原発事故で死者は一人も出ていない」というあきれた発言を思い出しました。



臨南寺 住職
大澤正道

被災地に足を運び現状を見て、もう一度、復興に対する考え方を変えてもらいたいと思います。

早いもので、今年もお盆を迎えます。

阪神淡路大震災とともに、東日本大震災も忘れることなく、ご先祖様と一緒に、亡くなられた方々に手を合わせたいと思います。

合掌

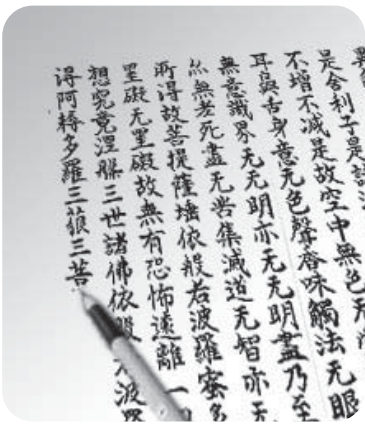
お彼岸は施食会にご家族そろってどうぞ

九月二十六日、午後二時から三時まで本堂にて彼岸会施食会を修行します。各家にゆかりの精霊をこ供養いたします。ご先祖様をしのび、ご家族の幸せに感謝いたしましょう。ご家族そろってお参りください。

彼岸のお写経にも

ご参加ください

一文字二文字心を込めてのお写経は、いろいろな功德があります。ご先祖様を供養し、故人の冥福を祈り、浄福を授かることができます。皆様のお写経は、大本山總持寺に納経させていただきます。九月二十日、午前十時から午後三時まで。



臨南寺行事予定（八〜九月）

檀家様

□ お墓経

* 八月十日 午前十時〜正午 受付は午前十二時半まで

* 八月十二日 午後五時〜九時 受付は午後八時半まで

どちらかご都合のよい日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

□ 弁財天万灯会（本堂）

* 八月十二日 午後六時〜九時（献灯時間）
ご祈禱は二回目午後六時半〜

二回目午後八時〜 受付は八時まで
あらゆる願いを叶えてくださる弁財天様に、願いを託して献灯をなさいませんか。ご先祖様をお迎えする迎え火にもなります。

□ 盂蘭盆会施食会（本堂）

* 八月十六日

午前九時〜午後二時 受付は十二時半まで
各家のご先祖様のご供養のため、法要をとりおこないご回向させていただきます。

□ 秋季彼岸会施食会（本堂）

* 九月二十六日

午後二時〜三時 受付は二時半まで
お彼岸はご先祖様に感謝しわが身を省みる大事な期間。仏壇に花やおはぎを供え、家族そろってお墓参りして、ご先祖様に供養をささげましょう。

□ 彼岸会写経会

* 九月二十日 午前十時〜午後三時

墓苑事務所で受け付けております。お気軽にお申し付けください。費用千円

墓檀家様

□ お墓経

* 八月十日 午前十時〜正午 受付は午前十二時半まで

* 八月十二日 午後六時〜九時 受付は午後八時半まで

どちらかご都合のよい日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。



お孫さんと一緒に楽しい花祭りです。



護寺会親睦会では食事を囲んで親睦を深めました。

ごうたんえ 降誕会と護寺会親睦会を開催

お釈迦様がお生まれになったのは四月八日ですが、四月六日(土)、二足早く降誕会(花祭り)を行い、あわせて住職が代わって初めての護寺会親睦会を開催しました。

お釈迦様は、インド北部のルンビニという美しい花園でお生まれになりました。誕生のとき、天から龍が舞い降り産湯に甘露な水を注いだと伝えられています。それに因んで、本堂に誕生仏を安置して、甘茶を注いでいただきました。皆様にも甘茶が振る舞われました。

墓苑をご利用の皆様へ



- 手桶を花立てとして使わないでください。使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- 自転車は駐輪場に停めてください。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物はカラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。
- トイレにはトイレトーパー以外は流さないでください。ティッシュは水に溶けません。ウエットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。

先入観を捨てて無心になれ

五月十九日(日)午後二時から、がっしょう園マトリの合同法要が本堂で営まれました。法話は千葉県柏市にある慈本寺副住職の薄永大明老師です。この日は道元禪師が書かれた「典座教訓」から、「いい食材でも悪い食材でも、一生懸命料理にあたらなさい」といけません。先入観を捨てて事に当たりなさい。無心の大切さを説かれました。

法話を聞いたあとマトリに移り、読経が続くなかご霊牌に手を合わせました。お墓の継承が難しくなった昨今、永代供養のマトリへ入会される方が増えています。



編集後記

「福島原発の事故で死者は1人も出ていない」と言った与党の政治家がいました。弱者への思いやりのなさ、想像力の欠如にあきれました。実際に農家や酪農家に自殺者がいるだけでなく、30万人の方々が生生活の基盤を根こそぎ奪われて、着の身着のまま福島県外へ避難しているという現実をどう受け止めているのでしょうか。(M)

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日
午前六時半〜 本堂にて
*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時〜午後三時
写経料・千円 椋伽林一階にて

「修証義」読書会

毎月第二土曜日 午後三時〜
*二月・八月は、お休みさせていただきます。
*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ〜っと」39号

平成25年7月

編集・発行：椋伽林「ほ〜っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com